

令和3年5月21日

# 全 員 協 議 会

## 追加資料

こども未来部

別紙資料（次頁～）は、第2次適正化計画に関して、保護者から各公立幼稚園に寄せられた声を、公立幼稚園・こども園長会が5月19日付で取りまとめたものです。

こども未来部保育幼稚園課

公立幼稚園 各園に寄せられた声 集約

令和3年5月19日

◎署名活動に取り組む中で、どのような思いがあったか

- ・署名活動は、「公立の幼稚園の3歳児保育が認められるのであれば希望は大きい」「3歳児保育が始まれば、公立幼稚園に留まる人は多い。このまま何も変わらなかったら、園児数が減り休園・廃園になってしまう。これから入園させたい2歳児1歳児の子が、入園することもできないかもしれない」「いい教育をしている公立幼稚園の存続をこれからの子どもたちのために望む」などの思いを持って活動をした。
- ・「自分の子どもを3歳から幼稚園に通わせたい」「幼稚園がなくなってほしくない」という思いから、自分たちにできることは何かないかと考えて署名活動につながった。
- ・以前に八郷が中心となって集めた署名活動をうやむやにされた経緯もあるので、どの保護者、地域住民も積極的に署名活動に励んだ。
- ・公立幼稚園の園児数が減ったのは、ずっと昔から毎年PTAでも要望し、市長にも直接タウンミーティングなどで訴えてきたにもかかわらず、3歳児保育が叶わなかったからで、行政が何もしてくれなかったから減った。
- ・自分の子ども(2歳児)が入るまでに、こども園は間に合わないと聞いた。私立幼稚園のプレには今からでは間に合わない。私立幼稚園は無償化といっても公立よりはお金がかかる。公立幼稚園も廃園、こども園には間に合わない、私立幼稚園にはお金がなくていけない、そんな家庭は働いて保育園に入れるしかないのか。
- ・幼稚園の存続のために、何かできることがあればしたいという強い思いだった。
- ・これから先、何かできることがあるのなら、PTAとしてやっていきたい。

◎市議会の中継や新聞記事などを受けて、どのような思いを持っているか

- ・2次計画のことは知らなかったが、当園の園児数の減少はとても気になり心配に思っている。我が子があと何年で就園になるかを考えると、大変不安である。
- ・3歳児保育の大切さが言われている中、時代は変わってきているのに、3歳児保育のこれまでの流れを変えることができない市への憤りを感じる。
- ・今後も議会で議論をしていくと言われたが、公立幼稚園の園児数減少が止められない中、早急に手を打たないと幼稚園はこのまま自然消滅になってしまう。
- ・「子どもたちのために」という思いからの動きなのに、思いを理解してくれる議員さんもいるが、多くの議員はなぜ私たちの思いを分かってくれないのか。
- ・今回の結果は、私立幼稚園との兼ね合いやこれまでのいきさつがあったこと、こども園がいつかはできるから・・・という理由で、公立幼稚園に我が子を入れたいと願っている親の願いが切り捨てられた。自分の選んでいる道を否定されたように感じた。
- ・このままでは、ここ2～3年で幼稚園に入園する年齢になる子どもたちに、受けさせたい教育の場を保障してあげることができない。

- ・3歳児保育への請願は否決になったが、2次計画についてはこれからも議論していくと言っていたが、どんな風に議論されるのか不安。そもそも2次計画が議論されることになったのだから、とりあえずその間は、政策が進められないという希望を持っていいのか。
- ・朝日新聞にしか取り上げられていないから、市民でも内容について知らない人の方が多いのが悔しい。こんなにもたくさんの署名があるのに、その思いをわかってくれない議員がいることや行政にがっかりしている。
- ・2次計画について何も知らされていなくて、寝耳に水といった感じで不安になった。
- ・市議会はあまり見ていないが、公立幼稚園がなくなるのは困る。
- ・議会中継を見て、幼稚園のために意見を言ってくれる議員さんがいることを知り、すごくありがたかった。また、幼稚園を残したいと思っている議員さんばかりではないということも知り、ショックだった。子どものことなのに、お金のことを言われるのも違うと思う。

◎2次計画を知って、感じていることは？

- ・公立幼稚園が廃園したらという前提ではなく、第一次適正化計画のように、「〇〇保育園と〇〇幼稚園を〇年度に〇〇こども園とする」というように示してほしい。廃園が決まってから、公？私？立保育園をこども園にしますという案内ではなく、公立の〇〇こども園ができるから閉園する、というように、具体的な計画を先に明示してほしい。
- ・廃園が決まってから明示された園が、“同地区内の公立か私立かわからない”“行き先の中身がどのようなかわからない”では幼稚園入園に申し込みに来てからさらに悩み、検討しなくてはならず、受けさせたかった幼児教育が本当に受けられるのか、と不安が募る。
- ・廃園になっていくと周知されると、希望している者にとっては“最終学年になるかもしれない”“希望者が減って一人や二人のごく少数になってしまうのではないか”という不安が大きくなり、さらに申し込みが減るのではないかと、さらに不安になる。それでも公立幼稚園に入るしかないという親子はいる。その子たちの教育保障はどうなるのかが考えられていない。年長組単学年になることをわかったうえで入ってくることは、保護者にとってはとてもつらい選択である。
- ・幼稚園が廃園になるから、保育園をこども園化して、入れてもらうというこども園の作り方が、保護者目線ではなく、とても悲しい。地域によっては、2号認定で第一希望の保育園に入園できず困っている保護者もいる。それなのに、あとから優先的に？少数で入れてもらう幼稚園対象の子どもたちという扱いや見方にならないか心配である。
- ・公立幼稚園への就園を希望する親にとっては、地域の幼稚園がなくなってしまうと不安になる。
- ・なぜ四日市には公立幼稚園の3歳児がないのか疑問である。(近隣の市町はあるのに)私立の2歳児・プレスクールでは、定員がいっぱいになると、3歳児で入園できないのではと不安になり、プレに参加する。一度参加すると料金も発生するので、そのまま入園する状況になる。公立で3歳児がないにしても、公立幼稚園は、子どもの様子もよくわかるし安心して預けることができるから、4・5歳児があるなら待っていることもできるが、人数減少でなくなるかも・・・という情報を聞くと不安でたまらなくなる。
- ・下の子ども公立幼稚園に入園させたいが、園児数が減ってきているので、下の子のときに入園で

きるのか、周りが私立や保育園に行ってしまう中で、待つことができるか不安。

- ・このまま2次計画がすすめられたら、地域の公立幼稚園を希望する子供たちはどうすればいいのか。また公立幼稚園は経済的、身体的、国籍などの理由で私立を選べない家庭を受け入れているという公的役割があるが、そのような家庭はどうすればいいのか。
- ・保育園の施設を使用しこども園となり、教育認定児を3歳児から入園可とするとなると、現在3歳から私立に通わせている家庭も選択肢が広がることになる。それは子どもに合わせた教育施設を選ぶことができ、よいことではあるが、現存の施設に対し入園希望の子どもが増え、待機児童が増えるとも考えられる。総合的に見ても、第1希望の園での保育が受けられなくなる子どもが増えるのではないかと心配である。
- ・ずっと公立幼稚園での3歳児保育実施を希望している。なぜなら、遊び会の2歳児をもつ保護者は、この時点で私立か公立かとか、私立のプレに入れるかなど3歳児からの就園について考えている。私立を選ばない(公立の4歳児からの保育を選ぶこと)=3歳児保育が受けられないという現状があり、選択肢がなく、不平等感を感じる。
- ・公立幼稚園がなくなれば、支援のいる子の行き先の選択肢は確実に減る。
- ・こども園がどこにいつできるのかがわからないうちから、園児募集を打ち切られると、行き先がわからず不安。私立には入れたくなくて公立を選んでいるのに。
- ・公立幼稚園が存続できるのかどうか、とても心配である
- ・近隣園の公立幼稚園を合わせることで園児数を集めることはできないのか。

◎これから何を望んでいるか

- ・2次計画のこども園の在り方に納得がいかない。幼稚園の教育が受けたいから、仕事を減らしたり、祖父母に協力してもらったりして保育園から変わってきている人もいるのに、幼稚園児が減ったら保育園をこども園にする、というのでは、結局保育園に入れているのと同じになる。こども園にするなら、こども園の中身をちゃんと検討してほしい。
- ・廃園したらどうしよう・・・ではなく、もうすぐこども園(幼稚園型および幼保連携型)ができるから、その中身を知り、かかわっていけるようにしてほしい。それならば、希望がもてる。
- ・わが子の就園について考える2歳児の時にこそ、すべての行き先の(保、幼、公立、私立、こども園など)選択肢が明確にそろっていることが必要だと感じる。だからこそ、いつこども園になるのかを早く教えてほしい。何より幼稚園を廃園にする前に、地域の保幼のこども園化を行うべきだと思う。市は、地域にどれだけの子どもがいるかなど把握しているのだから、地域のこども園化構想を早急に決めて知らせてほしい。
- ・子どもにあった園を選ぶ選択肢が狭い。働いてないと保育園には入れない、2歳からのプレに行っていないと入れない(下の子がいると親子参加のプレは不可能)などの制約を考えた時、こども園になることで、園を選ぶ時の選択肢が広がることにつながってほしい。
- ・こども園を作るなら、地域内では、幼稚園の方が広くて立地条件もよい。その辺もきちんと考えてこども園を作してほしい。

- ・適正化計画は、公立幼稚園のあり方が大きく変わる内容なのに、当事者である保護者には知らされずに、急にスタートされることがわかり、不信感は大きい。当事者にわかるように、透明性をもって、議論を尽くしてほしい。そして、ていねいに説明してほしい。
- ・市民の声をしっかりと聞いて、四日市全体として公立の保育園、幼稚園、こども園がどんな形を目指すのか知らせてほしい。
- ・公立幼稚園での3歳児保育ができないなら、幼稚園型のこども園にして、3歳児保育を始めてほしい。
- ・こども園の入園希望者が多い場合は、幼稚園の施設を使用し、3歳児以上の子どもを受け入れたらいいのではないかと。すると、待機児童の多い2歳児以下の未満児を保育園の施設に今よりもクラス数を増やし受け入れられると思う。
- ・1号認定の3歳児を受け入れてくれるのであれば、公立幼稚園の人数が激減している今の状況から、こども園に移行することも賛同できる。(その場合も時期と地域を早く知らせてほしい)
- ・公私の分けへだてなく、3歳児保育をしてほしい。
- ・公立幼稚園のようにのびのびと、子どもの姿をそばで感じながらの幼稚園がよい。
- ・体をいっぱい動かしながら、いろいろな遊びや体験をさせたい。公立幼稚園で、幼児期に大切な遊び、学び、体験をした子たちは、小学校へ行ってぐっと成長する姿を見てきたので、子どもたちのために、公立幼稚園で就学前を過ごさせたい。
- ・早期教育は望まない。いろんな習い事をさせる必要がないと考えている。一律教育ではなく、外遊びが十分でき、子どもが興味をもった遊びを存分に楽しませてもらえる公教育を望んでいる。
- ・園内にも自然豊かな環境があり、子どもの興味があることを大事にしてくれる教育。
- ・今、毎日の送迎で、保護者同士のつながりが自然とできて、自分の子以外の成長を見守ることができ、また2年間、子どもたちの成長を見て、知って、一緒に親同士喜びあうこともできる。そのため、保護者の思い出も深く濃く残る。そんな良さをこれからも活かしてほしい。
- ・公立幼稚園のように、先生と毎日話ができたり、子どもの様子を見ることができたり、ゆったりと一人一人に合わせた保育をしてほしい。人数が多い方がよいという考えの方が多いが、人数が多いと目が行き届かないので、逆に心配である。
- ・地域の方々や保育園、小学校、中学校との交流を通して、いろんな人とかかわる力をつけたり、地域を知り、地域を好きになったりしてほしい。
- ・子ども一人ひとりの思いをていねいに受け止め、それぞれの個性を大事にしてくれる教育。公立幼稚園の雰囲気、のびのびと遊べる環境がよい。楽しく遊んでほしい。
- ・発達がゆっくりな子だったから、公立幼稚園に入れてよかった。私立では人数も多く時間で区切られているため合わせていくことが難しいと思った。四日市市は私立幼稚園、保育園、公幼稚園、保育園、こども園と、子どもに合った環境を選べるというところがいいのでは。公立幼稚園を選択肢の一つとして残してほしい。
- ・働かないといけないような風潮が、保護者にとっては窮屈である。いろいろな子育てを認めてほしい。



令和3年6月18日  
三泗支部幼稚園部

## 要望書

### 「公立幼稚園第2次適正計画」ならびに幼稚園教育存続に関する要望書

四日市市公立幼稚園での幼児教育においては、126年の歴史があります。子どもにとっても保護者にとっても、安心して過ごす教育がされています。公立幼稚園での幼児教育を残すことは、四日市市の強みとなるのではないのでしょうか。

しかし、このたび、公立幼稚園第2次適正計画などの制度変更において、職員及び保護者が、先の見通しが見えないまま、不安を抱える毎日です。公立幼稚園の園児が減少する中で、長い歴史ある公立幼稚園の存続を、近年のデータのみで判断することは、到底納得できるものではありません。

未来ある子どもたちや保護者のため、ひいては四日市市のためにも公立幼稚園が存続するよう希望しています。

#### 1. 公立幼稚園第2次適正計画についての説明を求めます。

現場で働く職員に十分に周知されない間に公立幼稚園存続が難しい状態になっていることに対して、この先どうなるか、不安な思いがいっぱいです。職員ならびに、公立幼稚園に通う保護者に対する具体的な説明をお願いします。特に『公立幼稚園第2次計画』P4の位置づけの表に対しては、幼稚園型こども園を含め、保護者の選択肢が増えるよう希望します。その他、組合員から疑問や不安に思う点が出されました。具体的な説明をお願いします。

#### 2. 公立幼稚園が今までしてきた幼児教育ができる施設で、私たちの力が発揮できる職場環境を求めます。

四日市市の公立幼稚園では、自ら選んでする活動を大切に保育してきました。子どもが自分で考えて主体的に活動することによって、子どもの心が動き、学びの第一歩となります。それは、教師が子どもたちの気持ちに寄り添って保育しているからこそ、実現していると思います。今ある公立幼稚園舎を利用した3歳児からの幼稚園型こども園を開園し、公立幼稚園の歴史ある幼児教育を実践します。

3. 保護者や子どもたちが、行先に見通しがもてるような政策にしてください。

公立幼稚園には、支援を必要とする子ども、外国にルーツのある子ども、施設から通う子ども等、たくさん在籍しています。他の園でも受け入れるとなっていますが、実際のところ、公立幼稚園の入園を希望する保護者がいます。定員を超え入園できなかつたり、希望する教育が受けられなかつたりして、子どもたちの行き場を奪う事になりかねません。また、私立幼稚園は3年保育ですが、公立幼稚園は2年保育のため、公立幼稚園を考えていた保護者にとっては、入園できずに戸惑う人が出てくると予想されます。急な変更は避けいただき、入園3年前（2歳児の時）には、先の見通しがもてる具体策を示してください。

4. 認定こども園の3歳児一号認定の受け入れを早急にお願いします。

3年保育が可能になれば、集団生活の中でより多くの経験を重ねたり、家庭支援の必要な子どもの早期発見に繋がったりします。また、働いている保護者にとっても、子育てしやすい環境になります。ニーズに応じたすべての子どもに3歳児からの保育が実施されることを強く望みます。幼稚園型認定こども園と幼保連携型認定こども園の3歳児一号認定の受け入れを強く望みます。